

49 人間国宝（2021年4月20日）

パリにあるギメ東洋美術館で、染織家である志村ふくみ（96歳）の着物が展示されているのを見たことがあります。チェルヌスキ美術館は、濱田庄司（故人）と島岡達三（故人）の陶芸作品を所蔵しています。これらの作家たちには、共通点がありません。それは、三人とも日本の「人間国宝」に認定されたということです。



「人間国宝」とは、文化財保護法に基づいて文部科学大臣が指定した重要無形文化財の保持者として認定された個人を指す通称です。法律には人間国宝という言葉は使われていませんが、一般的に広く使われています。無形文化財とは、能楽や歌舞伎を始めとする芸能と陶芸や染織を含む工芸技術といった無形の「わざ」の中で、歴史的にも芸術的にも価値の高いものを指します。これらの「わざ」を高度に体現する個人が人間国宝に認定されます。2021年1月現在、「人間国宝」は112名（重複者1名を含む。）います。これまでに「人間国宝」に認定された人は延べ374名いますが、無形文化財は、あくまでも「人間国宝」の「わざ」そのものであるため、保持者が死去すると認定は解除されます。この制度は1955年に始まり、濱田庄司は第一回目の保持者の一人です。



日本は、1950年に文化財保護法を制定し、世界に先駆けて無形文化遺産保護に取り組んできました。ユネスコで交渉が行われて2006年に発効した無形文化遺産保護条約は、伝統的舞踊、音楽、演劇、工芸技術、祭礼等の無形文化遺産を消失の危機から保護し、次世代へ伝えていくための国際的な協力及び援助の体制を確立することを目的としています。日本は、この条約の議論を主導しました。

フランスのメットル・ダール(Maître d' Art)は、フランスの伝統工芸の最高技能者に与えられる称号で、日本の人間国宝を参考にして1994年に誕生しました。これまでに141名のメットル・ダールが認定されています。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

日本もフランスも、豊かな伝統的な技能がある国です。これらの技能が、次の世代に受け継がれていくことを願ってやみません。

(注：上記の着物と陶器は、2020 年秋頃に各美術館の常設展示スペースに展示されていた作品ですが、常設展示は定期的に展示替えされます。)